

# なんじゃもんじゃ

第 28 号

平成 25 年 1 月 1 日  
発行責任者：管理者 細江 雅彦  
編集：市立恵那病院広報委員会  
<http://www.enahp.enat.jp/>  
E-mail: enahosp@enat.org

## 変わりゆく医療介護体制に 対応する多職種連携！ これぞもう一つの最先端医療です！！

新年明けましておめでとうございます。

市立恵那病院も開院して10年目を迎えました。昨年は、新病院建設に向けての話が進み、設計施工業者が決まりました。本格的に新年から病院の設計に入ることになります。これから恵那病院の敷地内に工事関係の車両などがはいり、槌音響く慌ただしい風景となります。しばらくの間、市民の皆様にはご迷惑をおかけしますが、何とぞご理解の程よろしく願います。

さて、21世紀になりそれまでの「様々な制度が現状に合わない」と言うことが議論されて既に10有余年が過ぎました。今、政治・経済に変化が求められ、社会制度の見直しが求められています。とりわけ社会保障制度の見直しの議論は、最も中心的課題の一つです。増え続ける高齢者への対応、これが問題となっていて、これから数年後には死者の絶対数が増え、これが問題となります。2040年頃には、最大死者数約170万人になると言われています。その高齢者の方々は、老夫婦だけの核世帯であったり、独居であったりと、血縁者は遠くにいて世話することができず、結局の所、近所、地域の住人が見守って行くことになると思われれます。厚労省は在宅医療の推進を謳っています。市立恵那病院は、この方向性を認識し地域の中核的病院としての役割を果たすために他の医療機関と機能分担をして効率的な連携を築いて行きます。地域には様々な形態の医療機関が生まれ、それぞれが特色を出して活発に動くものと思



管理者  
細江 雅彦

「基本理念」  
私たちは地域住民のために、医療倫理を守り、質の高い信頼される、思いやりあふれる医療を展開いたします。

- 一、患者さまの権利を尊重し、患者さま中心のチーム医療を展開いたします。
- 二、質の高い医療を提供できるように研鑽に努め地域包括医療に貢献いたします。
- 三、地域住民に安心され、永く親しまれ、信頼される病院を目指します。

具体的には21世紀の3大医療テーマである「がん診療」「緩和ケア」「認知診療」への対応です。それぞれの事例を検討しながら在宅療養支援病院・診療所とグループ化した「かかりつけ医」の先生方が連携をして理想的な在宅医療制度が実践されていることが理想型であり目標です。

住民が安心して暮らすことができる町がそこにはあります。今年の目標は、この在宅支援システムを開発することです。在宅療養支援病院・診療所は基本的に在宅医療専門であって、忙しいかかりつけ医の先生とグループを組み相補うような形で地域を守っていく。これが理念型としての、一つのあるべき姿ではないかと思えます。そこをモデルの実践から制度を開発したいのです。市立恵那病院は現在持っている医療資源を地域に提供して行きます。在宅医療の質を向上維持させるために研修会の開催も行って行きます。在宅医療の先端をいっているアドバイザーからも意見を聞きながら質を向上維持させたいです。一つのモデルを開発し、医師研修プログラムもできれば良いのかなと、思いは膨らむばかりです。

私は絶対の確信を持っているのですが、時代の最先端な「へき地・地域医療」こそが、これからの時代を築くと強い自負心を持っていきます。「多職種連携チームアプローチ」は、もう一つの時代の最先端医療の在り方です。都市部はこれから超高齢化時代を迎えると言われていきます。へき地・地域における医療の方法というのは都市においても全く同じように必要な方法であって、へき地・地域だけの問題ではないという確信を持っています。人々の生活の幸せを願うという大きな道に夢を持って進んで行きたいと思えます。

すでに認知症の地域連携では、地域の介護施設の方、包括支援センターの方と協働して病院内で家族会を開き、そしてケアする方々のレベルアップのためにMindMap手法を使った「見える事例検討会」を各施設で開催しています。在宅医療連携ではまず、恵那市が開設する診療所（国保山岡診療所）との間で情報を共有（電子カルテ設置予定）して診療連携を図ることを始めました。今年、前述したモデル開発に力を入れて行きます。へき地・地域医療での最先端医療、多職種連携医療を推進して行きます。がん診療や緩和ケア、その患者の「こころのケア」について、そして認知症の研修会も活発に開催して行きます。そして地域住民が安心して暮らせる地域作りに参加して行きます。本年も何とぞご支援、ご理解よろしく願います。





# 医療機器等管理 委員会のご紹介

## ① 目標

当委員会は、病院運営に適した医療機器等の整備を推進するために必要な事項を審議し、適正な医療機器等の安全管理及び運営を図ることを目的として活動しています。特に医療機器の医療安全については、平成二十年度診療報酬改定で初めて医療機器安全管理料として収益上も評価され、臨床工学技士の重要性がさらに評価されています。

特に医療機器に関しては、同じ治療で使用する機器でもメーカーや製造時期の違いによって、操作方法等が変わってきます。これによるインシデント（重大事故に至る可能性がある事態が発生し、なおかつ実際には事故につながらなかった潜在的事例）の発生を防ぐために医療機器操作勉強会を開催しています。



## ② 活動内容

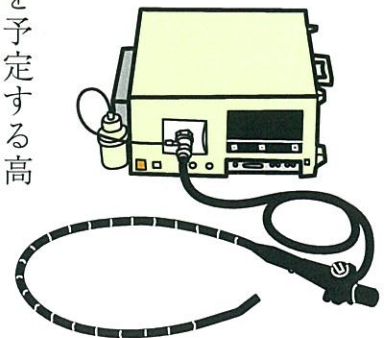
委員会では、太田委員長（手術部長）の主導の元、年度当初に年間の医療機器保守点検予定表の作成、職員を対象にした医療機器の操作説明、臨床工学技士からの医療機器の稼働状況報告、経年劣化により更新を予定する高額医療機器の選定及び医療機器等の修理状況などを検討しています。

## ③ 平成24年度購入機器のご紹介

今年度は、臨床化学自動分析装置、温浴療法装置、全身麻酔器、人工呼吸器、軟性喉頭鏡、超音波装置、手術用ドリル、ベットサイドモニター等の購入を予定しています。

今年度の医療機器の更新等により当院の治療水準は更に向上して、基本理念にあるような地域の皆さまに質の高い、信頼される医療を提供することができると思っています。

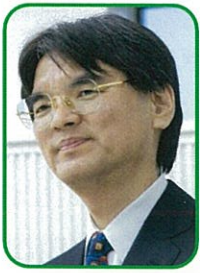
（企画課 今井裕志）





# 公開市民講座後援開催

平成15年12月1日に市立恵那病院が開院して初めて、医療関係の公開市民講座開催について後援することになりました。主催は(社)日本温泉気候物理医学会 東海北陸支部で、共催に恵那市 NPO法人福寿の里 自然倶楽部、そして、(社)恵那市観光協会及び市立恵那病院糖尿病支援委員会が後援をして、恵那市文化センター集会室で平成24年11月17日午後2時から開催され、会場には、約50名の恵那市民の方の参加がありました。



北海道大学  
大塚吉則教授

演題は、「温泉療法と森林浴を考える」で市民の方は熱心に耳を傾けていました。特別講演では、北海道大学大学院教育学研究科人間発達科学分野の大塚吉則教授(専門・内分泌・代謝学)をお迎えして、「メタボ・糖尿病と温泉療法」の演題で温泉、森林、海洋、湖などの自然環境を利用した「温泉気候療法」や「中高齢者の健康づくり」について講演がありました。



その他、(社)恵那市観光協会 専務理事 大嶋 晋一さんによる「恵那の観光と温泉の紹介」やNPO法人 福寿の里 自然倶楽部 事務局長 横光 八州男さんによる「アライダシ原生林トレッキングツアー」及び 市立恵那病院 管理者 細江雅彦による「森林浴と健康に関する心理・生理・免疫学的研究」についての説明もありました。

市立恵那病院では、今後も恵那市で主催している出前講座、市立恵那病院で開催している糖尿病教室などや、今回のような市民公開講座の開催について、地域の皆さまの健康や医療に関する情報を発信していきたいと考えていますので、ぜひ、その際にご参加をお願いします。また、当院では糖尿病に関心がある方の糖尿病友の会『あゆみの会』の後援もしております。年会費三千元で毎月、糖尿病関連の雑誌「さかえ」を配布しておりますので、ご興味のある方は、市立恵那病院医事課までご連絡をお願いします。

電話0573-26-2121(代表) 医事課迄  
(糖尿病支援委員会)

## 看護師募集のお知らせ

職 種…看護師(若干名)  
 休 日…日曜日、土曜日、祝日を含めて月7.5日以上  
 有給休暇…最大年間20日(採用月により変動します)  
 特別休暇…年末年始、リフレッシュ休暇、産前産後休暇、忌引等  
 ※臨時職員(日勤勤務者) 看護師も募集しています。左記までご連絡下さい。  
 市立恵那病院 電話…0573-26-2121(担当 清原・渡部)